SONY

2-639-596-**03**(1)

ホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

S-FORCE FRONT SURROUND　S-master Digital Amplifier　AAC

HT-LC150FS

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～6 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。7 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

➡

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災　感電　指のケガに注意

行為を禁止する記号

禁止　分解禁止　接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示　プラグをコンセントから抜く

目次

接続と設定

基本的な操作

その他の機能

その他

⚠警告

火災 感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

禁止

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

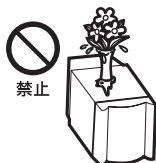
上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

禁止

内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

接触禁止

本機を日本国外で使わない

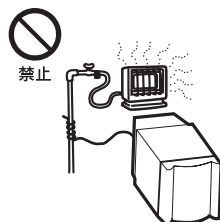
交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

指示

交流100V

ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

禁止

⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

指示

コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による**大けがや失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明ややけどが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

接触禁止

必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

指示

➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症ややけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

禁止

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

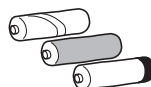
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

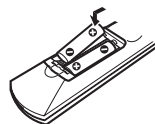
禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

禁止

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指示

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

指示

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 布団などやわらかいものの上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本体後面の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。本体後面の通気孔を絶対にふさがないでください。
- 本機の上に重いものを置かないでください。

音量を調整するときは

本機につないだ機器を再生するときなどはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたりするなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

音のエチケット

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、本機内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、本機の部品を傷めることがあります。結露が生じたときは、電源コードを抜き、部屋の温度が一定になってから30分経過した後に、再び電源を入れ直してお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

接続と設定

操作の流れ

本機を使用するための接続と設定をします。以下の流れに沿って行います。

「手順1：付属品を確認する」（8ページ）

↓

「手順2：スピーカーをつなぐ」（10ページ）

↓

「手順3：アンテナをつなぐ」（12ページ）

↓

「手順4：DVDレコーダー（スゴ録）やBS／CS／地上波デジタルチューナー、テレビ、ビデオなどをつなぐ」（14ページ）

↓

「手順5：電源コードをつなぐ」（18ページ）

↓

「手順6：スピーカーの設置と設定をする」（19ページ）

ご注意

- 雑音を避けるため、プラグはしっかりとつないでください。
- 本機につなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- スピーカーや他の機器をつなぐときは、全ての機器の電源コードを抜いてください。

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主にリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。同じボタンならセンターユニットでも操作できます。
使うボタンの位置については「各部のなまえ」（46～48ページ）で確認してください。

手順1：付属品を確認する

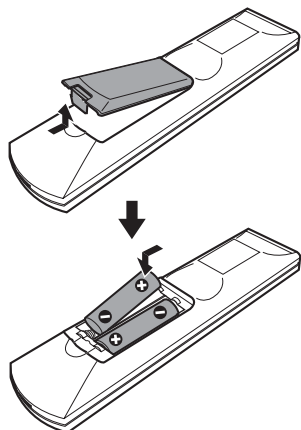
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- サブウーファー（1）
- センターユニット（1）
- フロントスピーカー（2）
- AMループアンテナ（1）
- FMワイヤーアンテナ（1）
- スピーカーコード（2）
- 光デジタルコード（1）
- リモコン（1）
- 単3形乾電池（R6）（2）
- スピーカーパッド*（サブウーファー用：大、フロントスピーカー用：小）
- 取扱説明書 （本書、1）
- かんたん接続・設置ガイド(カード)
- ソニーご相談窓口のご案内 （1）
- 保証書 （1）

* 振動でスピーカーが動かないようにサブウーファーとフロントスピーカーの底面の四隅に貼りつけてください。

付属品がそろっていないときは、お手数ですがお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（R6、付属）2個を入れてください。
本機を操作するときは、センターユニットのリモコン受光部 R（48ページ）にリモコンを向けて操作します。

ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。
  次のことを必ず守ってください。
  - 新しい乾電池と使用途中の乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 R に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

他機操作のためのコード設定について

付属のリモコンを使って、本機だけでなくテレビやソニー製DVDレコーダー（スゴ録）など本機につないだ機器の操作をすることができます。

センターユニットにリモコンを向けて、操作したい機器の入力切換ボタン（23ページ）を押してから操作してください。
お買い上げ時の設定は以下のようになっております。

入力切換ボタン	操作できる機器
テレビ	ソニー製テレビ
DVD	ソニー製DVDレコーダー（スゴ録）
SAT	ソニー製CSチューナー
VIDEO	ソニー製ビデオ（VHS）

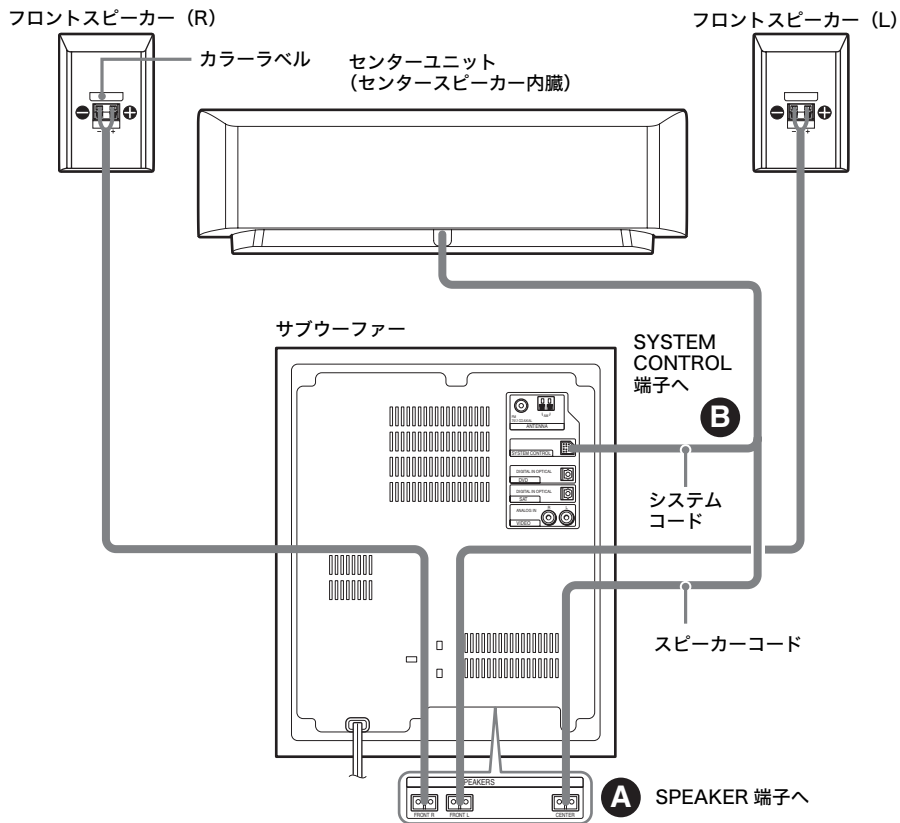
上記以外の機器をつないでいる場合は、機器番号を設定するとリモコンで操作できるようになります（テレビ以外はソニー製のみ）。
詳しくは「リモコンで他の機器を操作する」（34ページ）をご覧ください。

ご注意

- リモコンの入力切換ボタンを押すことで、本機の音声入力の切り換えと、リモコンの出力信号の切り換えを行います。本機につないだ機器を操作するときには、必ず入力切換ボタンを押してください。
- 入力切換ボタンを押したあ後には、リモコンは操作する機器に向けて操作してください。

手順2：スピーカーをつなぐ

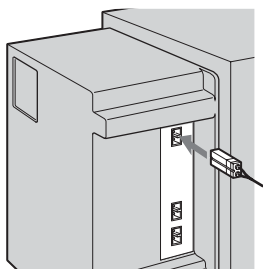
フロントスピーカーとセンターユニットを、付属のスピーカーコード（下記イラストⒶ、Ⓑ）でサブウーファーとつなぎます。

フロントスピーカー（R）
カラーラベル
センターユニット
（センタースピーカー内臓）
フロントスピーカー（L）
サブウーファー
SYSTEM CONTROL 端子へ
Ⓑ
システムコード
スピーカーコード
Ⓐ SPEAKER 端子へ

スピーカー設置上のご注意

- 以下のような場所には置かないでください。
  - 傾いた所。
  - 極端に温度が高い所または低い所。
  - ほこりの多い所。
  - 湿気の多い所。
  - ぐらついた台の上など。
  - 直射日光が当たる所。
- 付属のスピーカー以外のスピーカーはつながないでください。
- お手入れのときは、眼鏡拭きのクロスのような柔らかい布を使ってください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に、サブウーファーおよび、フロントスピーカーを置くときは、床に変色、染みなどが残ることがあります。
- スピーカーを設置したり接続したりするときには、スピーカーと床のあいだに手をはさまないように注意してください。

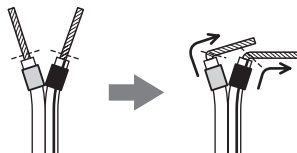
Ⓐ スピーカーをつなぐ

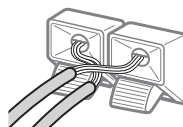
付属のスピーカーを、サブウーファーの底面にあるSPEAKER端子にスピーカーコード（付属）を使ってつなぎます。
スピーカーコードに付いているカラーチューブは、つなぐスピーカー端子やスピーカーのカラーラベルと同じ色になっています。

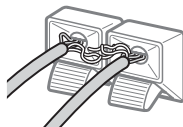
灰色
(+)
(+)
(−)
カラーチューブ
(−)
黒色

ご注意

- スピーカーをつなぐときは、傷などを防ぐため、あらかじめ床にやわらかい布などを敷いてください。
- スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて＋と＋（灰色）、−と−（黒色）をつなぎます。極性を間違えると、音が歪んだり低音不足に聞こえます。

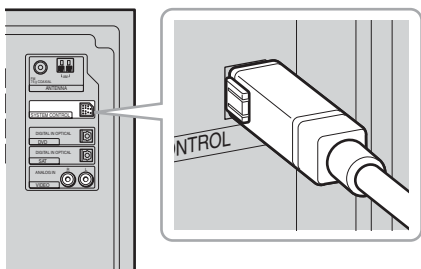
スピーカーコードの処理について

- スピーカーコードをつなぐとき、被覆部を端子にはさまないようにしてください。下図のようにスピーカーコードの先端を被覆がむけている根本の部分で折り曲げてからスピーカー端子につなぐと、被覆部を挟み込みにくくなります。
- ショートを防ぐために、スピーカーコードの両端の被覆がはがれている部分が、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例

スピーカーコードの先端が端子から大幅にはみ出し、他のコードと接触している。

スピーカーコードの先端が他のコードと接触している。

次のページへつづく

Ⓑ サブウーファーとセンターユニットをつなぐ

センターユニットのシステムコードを、サブウーファーのSYSTEM CONTROL端子につなぎます。またセンターユニットのスピーカーコードを、サブウーファーのCENTER SPEAKER端子につなぎます。
システムコードはカチッと音がするまで差し込んでください。

SYSTEM CONTROL 端子へ

ご注意

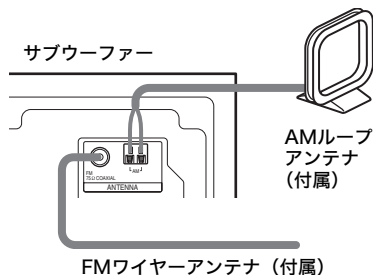
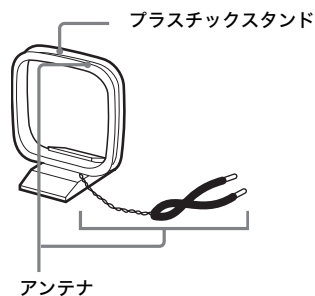
- 電源が入っているときにシステムコードを抜くと、本機はスタンバイモード（18ページ）になります。
- スピーカーやセンターユニットなど、すべての機器の接続が完了してから、電源コードをコンセントへつないでください。すべてのスピーカーが正しくつながれているかを確認するため、テストトーンを出します。テストトーンの出しかたは20ページをご覧ください。
  テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、センターユニットの表示窓に表示されているスピーカー名と一致しないスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーがショートしている恐れがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。
- コードを誤った向きに差し込むと、コードとサブウーファーを破損することがあります。正しい向きに差し込んでください。

手順3：アンテナをつなぐ

ラジオを聞くために、付属のAM/FMアンテナをつなぎます。

サブウーファー

AMループアンテナ（付属）

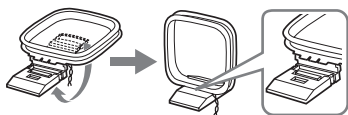
FMワイヤーアンテナ（付属）

AMアンテナをつなぐ

プラスチックスタンド

アンテナ

アンテナはAMの電波を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

1 ループ（〜〜〜）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

2 スタンド状に組み立てる。

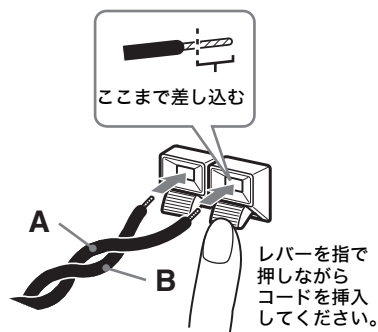
台を起こし、溝にはめます。

3 AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

付属のＡＭループアンテナは、コード（A）（B）をどちらの端子にもつなぐことができます。

ここまで差し込む

A

B

レバーを指で押しながらコードを挿入してください。

ご注意

雑音の原因になるため、FM／AMアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。

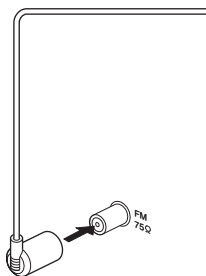
ちょっと一言

AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きを受信状態の良い方向へ変えてください。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかりつながれたことを確認する。

FMアンテナをつなぐ

FMアンテナをFMアンテナ端子につなぎます。

FM 75Ω

ご注意

- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使用しないでください。

ちょっと一言

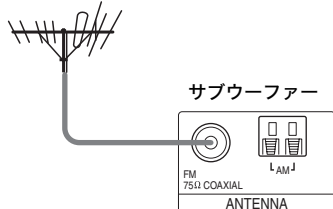
FMの受信状態が良くないときは、次のように、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本体と屋外アンテナをつなぎます。

屋外アンテナ

サブウーファー

FM 75Ω COAXIAL

AM

ANTENNA

手順4：DVDレコーダー（スゴ録）やBS／CS／地上波デジタルチューナー、テレビ、ビデオなどをつなぐ

本機にDVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤーや“プレイステーション 2”、BS／CS／地上波デジタルチューナー、テレビやビデオなどをつなぎます。つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。つないだ機器の音声を本機で楽しむには「本機の基本的な使いかた」（23ページ）をご覧ください。

ご注意

機器をつなぐときは、すべての機器の電源コードを抜いてください。

DVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤー、“プレイステーション 2”などをつなぐ

DVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤーや“プレイステーション 2”などをつなぎます。
つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
本機のDVD (DIGITAL IN OPTICAL) 端子と、つなぐ機器のデジタル音声出力（光）端子を、光デジタルコード（付属）でつなぎます。
つないだ機器の音声を再生するには、リモコンのDVD（入力切換）ボタンを押してください（23ページ）。

ご注意

本機には映像入力はできません。接続した機器の映像出力端子はテレビの映像入力端子につないでください。

DVD レコーダー（スゴ録）／プレーヤー、“プレイステーション 2”など

デジタル音声出力（光）
端子へ

デジタル音声出力

光

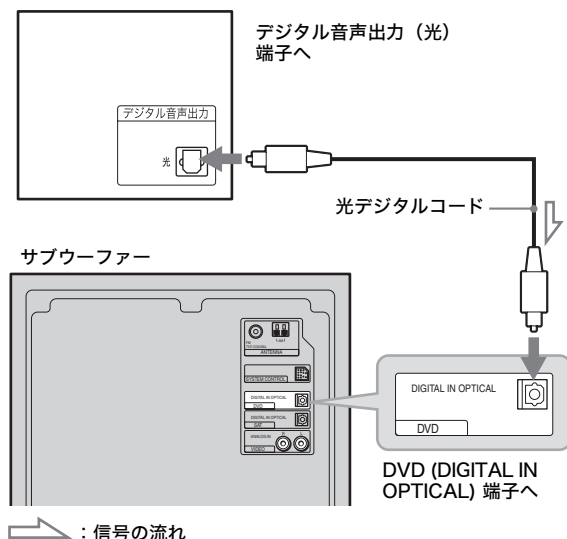
光デジタルコード

サブウーファー

DIGITAL IN OPTICAL

DVD

DVD (DIGITAL IN OPTICAL) 端子へ

：信号の流れ

DVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤー、“プレイステーション 2”などの音声（オーディオ）設定について

DVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤー、“プレイステーション 2”などをつないだときは、本機のサラウンド効果を十分にお楽しみいただくために、以下のように各機器を設定してください。設定について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

DVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤー

1 セットアップ画面で「音声（オーディオ）設定」を選ぶ。

2 「オーディオDRC」を「ワイドレンジ」に設定する。

3 「デジタル出力」を「入」に設定する。

4 「ドルビーデジタル」を「入」に設定する。

5 「DTS」を「入」に設定する。

6 「48 kHz/96 kHz PCM（サンプリング周波数）」を「48 kHz」に設定する。

“プレイステーション 2”

1 セットアップ画面で「音声（オーディオ）設定」を選ぶ。

2 「音声（オーディオ）デジタル出力」を選ぶ。

3 「光（オプティカル）デジタル出力」を「入」に設定する。

4 「ドルビーデジタル」を「入」に設定する。

5 「DTS」を「入」に設定する。

“プレイステーション 2”はソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

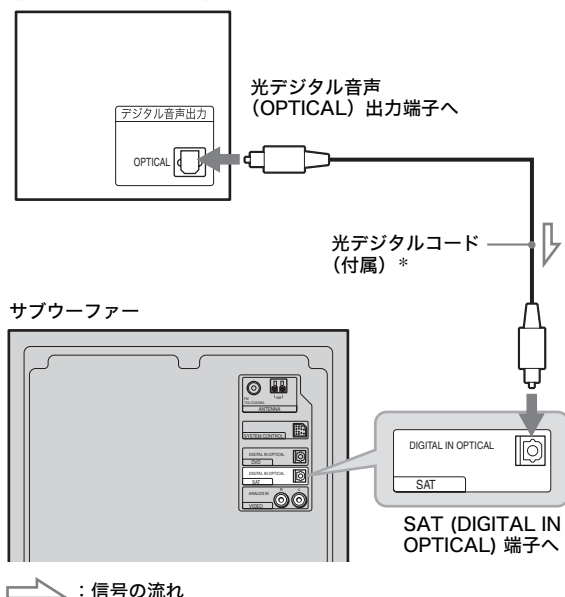
次のページへつづく

BS／CS／地上波デジタルチューナーやテレビなどをつなぐ

BS／CS／地上波デジタルチューナーや光デジタル音声（OPTICAL）出力端子のついたテレビなどをつなぎます。つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
本機のSAT (DIGITAL IN OPTICAL) 端子と、つなぐ機器の光デジタル音声出力端子を、光デジタルコード（付属）でつなぎます。
つないだ機器の音声を再生するには、リモコンのSAT（入力切換）ボタンを押してください（23ページ）。

ご注意

- 光デジタル音声出力端子のないテレビをつなぐ場合は、「テレビやビデオなどをつなぐ」（17ページ）をご覧ください。
- 本機には映像入力はできません。接続した機器の映像出力端子はテレビの映像入力端子につないでください。

BS ／ CS ／地上波デジタルチューナー、テレビなど
デジタル音声出力
OPTICAL
光デジタル音声
（OPTICAL）出力端子へ
光デジタルコード
（付属）＊
サブウーファー
DIGITAL IN OPTICAL
SAT
SAT (DIGITAL IN
OPTICAL) 端子へ
：信号の流れ

＊ DVDレコーダー（スゴ録）などの接続ですでにお使いの場合は、あらたにご用意ください。

BS／CS／地上波デジタルチューナーやテレビなどの音声（オーディオ）設定について

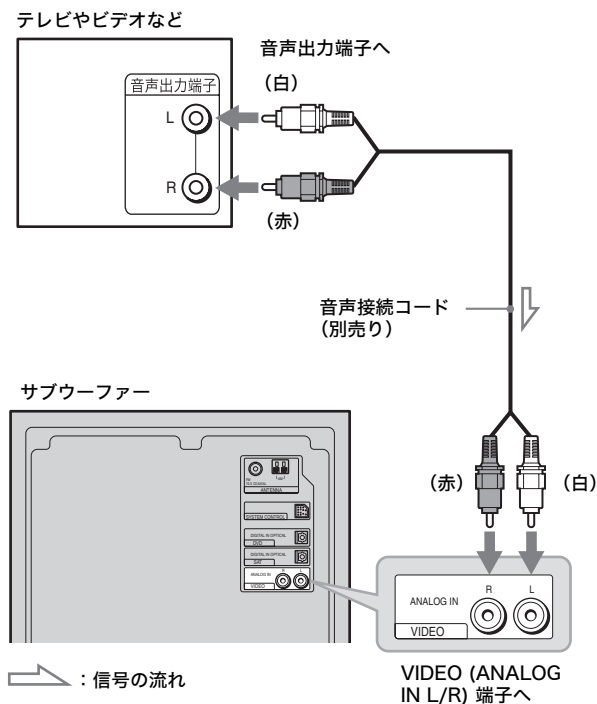
つないだ機器のデジタル出力を「入」に設定し、AAC設定を「オート」または「入」に設定してください。AACの設定を「切」あるいは「PCM」に設定している場合は、マルチチャンネル放送時にも音声が2CH出力され、サラウンド効果が薄れます。
設定について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビやビデオなどをつなぐ

テレビやビデオなどをつなぎます。つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
本機のVIDEO (ANALOG IN L/R) 端子と、つなぐ機器の音声出力端子を、音声接続コード（別売り）でつなぎます。
つないだ機器の音声を再生するには、リモコンのVIDEO（入力切換）ボタンを押してください(23ページ)。

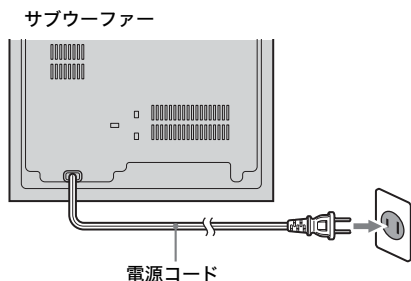
ご注意

本機には映像入力はできません。接続した機器の映像出力端子はテレビの映像入力端子につないでください。

テレビやビデオなど
音声出力端子へ
音声出力端子
L
R
（白）
（赤）
音声接続コード（別売り）
サブウーファー
（赤）
（白）
ANALOG IN
R
L
VIDEO
：信号の流れ
VIDEO (ANALOG IN L/R) 端子へ

テレビやビデオの音声について

- 本機につないでいるテレビやビデオの音声出力がモノラル出力の場合は、モノラル／ステレオ変換コード（別売り）などを使ってつなぎます。ただし、サラウンド効果が得られないことがあります。
- 本機につないでいるテレビやビデオの音声設定でサラウンドを設定していると、本機のサラウンド効果が得られないことがあります。テレビやビデオのサラウンドの設定を「切」にしてください。

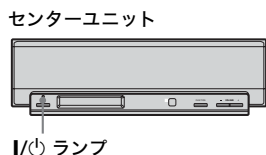
手順5：電源コードをつなぐ

スピーカーや他機器をつないでから、サブウーファーの電源コードを壁のコンセントにつないでください。

サブウーファー

電源コード

サブウーファーの電源コードをつなぐと、センターユニットの I/⏻ ランプが点灯します。

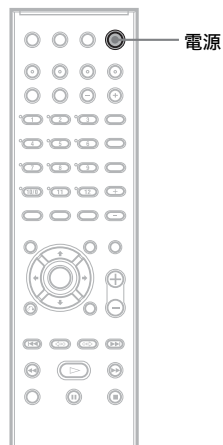
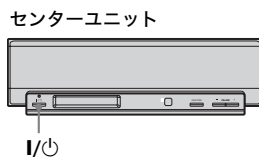
センターユニット

I/⏻ ランプ

ここまでのすべての接続が終わったら、次の「手順6：スピーカーの設置と設定をする」（19ページ）へすすみます。

本機の電源の入／切をするには

センターユニット

I/⏻

電源

センターユニットの I/⏻ ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押すと、電源が入ります。電源を切るには、もう一 I/⏻ ボタンまたは電源ボタンを押します。本機がスタンバイモードになり、センターユニットの I/⏻ ランプが赤く点灯します。

ご注意

スタンバイ状態で電源コードを抜くと、しばらくの間センターユニットの I/⏻ ランプが点灯していますが、故障ではありません。

手順6：スピーカーの設置と設定をする

フロントサラウンド効果をお楽しみいただくために、スピーカーの位置を決め、スピーカーの音量などの設定をします。

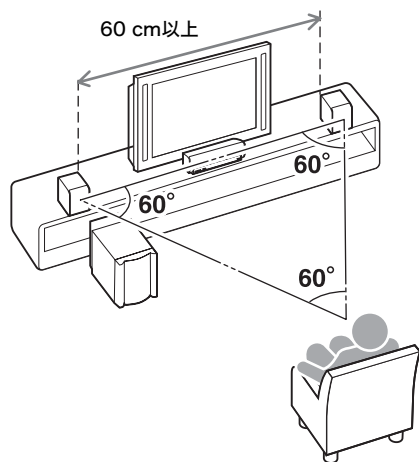
スピーカーを設置する

下図のようにスピーカー、センターユニットを正しく設置してください。

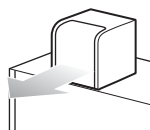
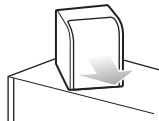
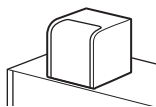
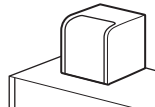
60 cm以上

60°

60°

60°

フロントスピーカー、センターユニットの設置のしかた

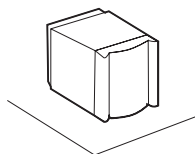
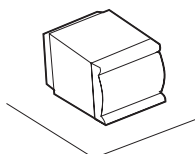
フロントサラウンドを効果的にお楽しみいただくために、以下のようにフロントスピーカー、センターユニットを設置してください。

- 左右のフロントスピーカーの距離と視聴位置からの距離を等間隔にする（左の図のような正三角形になるように設置する）。
- 左右のフロントスピーカーは60 cm以上離して設置する。
- フロントスピーカーは視聴位置にいるときの耳の高さと同じになるように設置する。
- フロントスピーカーはテレビより前に置く。フロントスピーカーの前にはものを置かない。
- 左右のフロントスピーカーはまっすぐに置く。視聴位置に向けて傾けて置かない。

正しい例　悪い例

- フロントスピーカーをテーブルやラックに置くときは、スピーカーを後方に置くと音が反射してフロントサラウンドの効果が落ちてしまうので、前方に置く。

正しい例　悪い例

- センターユニットを左右のフロントスピーカーの中央に置く。サラウンド音声をより効果的にするには、センターユニットをフロントスピーカーと同じ高さに置く。
- 各スピーカーは部屋の壁に近付きすぎないように設置する。

次のページへつづく

サブウーファーの設置のしかた

サブウーファーは以下の点にご注意して設置してください。

- 反響が発生しないように、できるだけ固い床に置く。
- 壁から離して、横に倒したりせずに置く。

正しい例　　悪い例

ちょっと一言

サラウンドの効果はサウンドフィールド設定（S-Force Front SurroundまたはMOVIE）によって異なります。サウンドフィールド設定を変更し、お好みのサラウンドをお楽しみください。
詳しくは「サウンドフィールドボタンを使って、サラウンド効果を楽しむ」（24ページ）をご覧ください。

スピーカーの設定をする

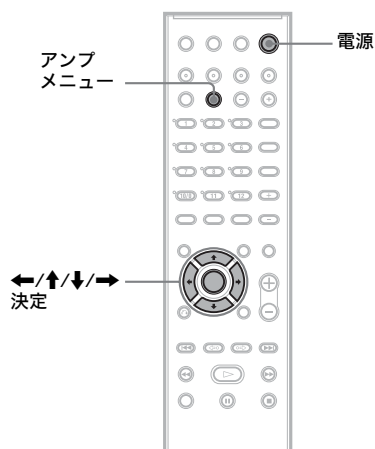
スピーカーの音量（レベル）の設定をします。
ここでの設定はアンプメニューで行います。

アンプメニューリスト

第一階層　第二階層　第三階層

SPEAKER LEVEL
- TEST TONE
  - OFF/ON
- FRONT L SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − 0 dB
- CENTER SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − +6 dB
- FRONT R SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − 0 dB
- SUBWOOFER LEVEL
  - −6 dB − +6 dB

CUSTOMIZE
- AUDIO DRC
  - OFF/STANDARD/MAX
- DUAL MONO
  - MAIN / SUB / MAIN+SUB / MAIN/SUB
- DIMMER
  - OFF/ON

電源
アンプメニュー
←/↑/↓/→
決定

1 **電源ボタンを押して電源を入れる。**

2 **アンプメニューボタンを繰り返し押して、アンプメニューをセンターユニットの表示窓に表示させる。**

3 **↑/↓ を繰り返し押して、「LEVEL」を表示窓に表示させ、決定ボタンまたは➡ を押す。**

例：

TEST TONE

4 **↑/↓ を繰り返し押して、「TEST TONE」を表示窓に表示させ、決定ボタンまたは ➡ を押す。**

例：

T.TONE OFF

5 **↑/↓ を繰り返し押して、「T. TONE ON」を表示窓に表示させる。**

各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。
リスニングポジションから操作して、すべてのスピーカーからテストトーンが同じレベルに聞こえるように以下の手順の操作を行って音量を調節します。

ご注意

スピーカーから音が聞こえないときは、スピーカーの接続を確認してください。

6 **⬅ を押して一つ前の階層に戻ってから、↑/↓ を使って、音量を設定するスピーカーを選ぶ。**

「FL LEVEL」：フロント左スピーカー
「CEN LEVEL」：センタースピーカー
「FR LEVEL」：フロント右スピーカー
「SW LEVEL」：サブウーファー

7 **決定ボタンまたは➡ を押す。**

手順6で選んだスピーカーからテストトーンが聞こえます。

8 **リスニングポジションから操作して、↑/↓ を使って音量を調節する。**

表示窓に音量のレベルが表示されます。
例：フロント左スピーカーから－4dBの大きさで出力されているとき

L FL LEV -4 dB

9 **手順6～8を繰り返して、他のスピーカーの音量を調節する。**

10 **すべてのスピーカーの調節が終わったら、⬅ を押して一つ前の階層に戻る。**

11 **↑/↓ を繰り返し押して、「TEST TONE」を表示窓に表示させ、決定ボタンまたは ➡ を押す。**

次のページへつづく

12 ↑/↓ を繰り返し押して、「T. TONE OFF」を表示窓に表示させる。

テストトーンが切になります。

13 アンプメニューボタンを押して、アンプメニューをオフにする。

設定中に一つ上の階層に戻るには

← を押します。

設定終了後に本機につないだ機器を操作するには

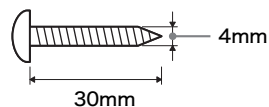
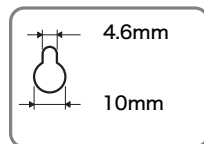
アンプメニューの表示を消した後に、DVD、SAT、またはVIDEO（入力切換）ボタン（23ページ）のいずれかを押して入力を切り換えます。

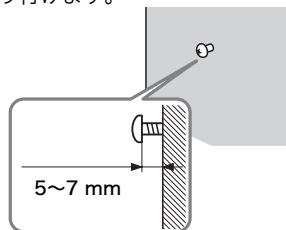
ご注意

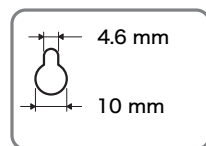
- レベル調整をした後、音が一瞬途切れます。
- リモコンで操作を行っているときに、センターユニットのFUNCTIONボタンを押すとそれまでの操作が失われます。もう一度リモコンで操作をやりなおしてください。

スピーカーを壁にかけるには

1 スピーカー裏面の穴に合う、以下のようなネジを用意する。

4mm
30mm

スピーカー裏面の穴
4.6mm
10mm

2 市販のネジを壁に取り付ける。
ネジが壁から5～7mm出ているように取り付けます。

5～7 mm

3 スピーカー裏面の穴をネジにかける。

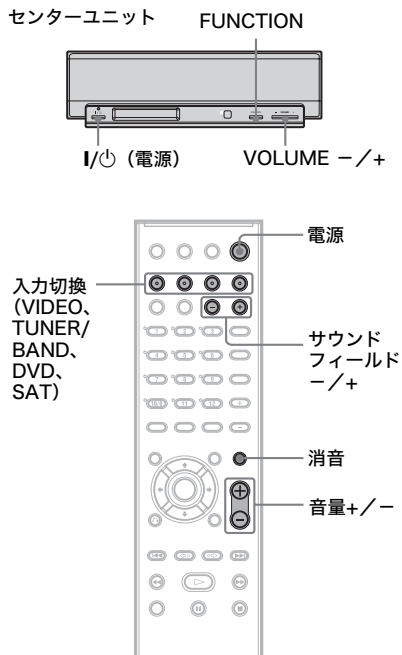
スピーカー裏面の穴
4.6 mm
10 mm

ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。また
- 強度の弱い壁には取り付けないでください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

本機の基本的な使いかた

本機につないだ機器の音声を再生します。

センターユニット
FUNCTION
I/⏻（電源）
VOLUME －／＋

電源
入力切換（VIDEO、TUNER/BAND、DVD、SAT）
サウンドフィールド－／+
消音
音量+／－

本機で再生する機器を選ぶ

それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
再生する機器が本機に正しくつながれていることを確認してください。

1 センターユニットのI/⏻（電源）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す。

2 センターユニットにリモコンを向けて、入力切換ボタン（DVD、SAT、VIDEO、またはTUNER/BAND）を押す。

再生する機器を選びます。選んだ機器はセンターユニットの表示窓に表示されます。

入力切換ボタン	再生できる機器
DVD	DVD端子につないだ機器（14ページ） （DVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤー、"プレイステーション 2"など）
SAT	SAT端子につないだ機器（16ページ） （BS／CS／地上波デジタルチューナーなど）
VIDEO	VIDEO端子につないだ機器（17ページ） （テレビやビデオなど）
TUNER/BAND	本機に内蔵のラジオ（FM/AM） （32ページ）

3 サウンドフィールド－/+ボタンを押す。

お好みのサウンドフィールドを選びます（24ページ）。

ちょっと一言

- センターユニットのFUNCTIONボタンを繰り返し押して、再生する機器を選ぶこともできます。

  以下のように入力が切り換わります。
  DVD → SAT → VIDEO → FM → AM
- 本機につないだソニー製機器を、付属のリモコンで操作することもできます。詳しくは「リモコンで他の機器を操作する」（34ページ）をご覧ください。

ご注意

リモコンの入力切換ボタンを押すことで、本機の音声入力の切り換えと、リモコンの出力信号の切り換えを行います。本機につないだ機器を操作するときには、必ず入力切換ボタンを押してください。

次のページへつづく

音量を調節する

リモコンの音量＋/－ボタンまたはセンターユニットのVOLUME－/＋ボタンで音量を調整します。

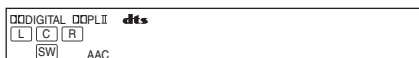
消音するには

消音ボタンを押します。
消音をキャンセルするには、もう一度消音ボタンを押すか音量＋ボタンで音量を上げます。

センターユニットの表示窓について

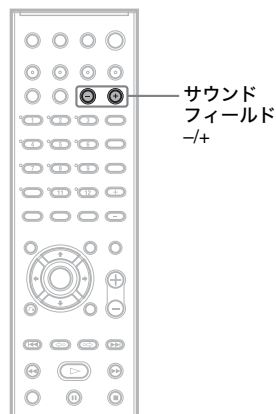
センターユニットの表示窓では、再生している音声の種類や、本機の状態などの情報を表示します。

センターユニットの表示窓

DIGITAL PLII dts
L C R
SW AAC

以下の情報が表示されます。

表示	情報
DIGITAL（ドルビーデジタル） dts（DTS） AAC	再生している音声のフォーマットを表示します。
PLII（ドルビープロロジックII）	現在のサラウンドの状態を表示します。
L（フロント：左） C（センター） R（フロント：右） SW（サブウーファー）	調節中のスピーカーを表示します。

本機のサラウンドを楽しむ

本機はフロントスピーカーとセンタースピーカー、サブウーファーで 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドを作り出します。本機のサウンドフィールドを選ぶことで、いろいろなサラウンドの効果をご家庭で楽しめます。

サウンド
フィールド
–/+

サウンドフィールドボタンを使って、サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールド－/＋ボタンを押す。

サウンドフィールド－/＋ボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを選びます。
選んだサウンドフィールドがセンターユニットの表示窓に表示されます。

サウンドフィールドの種類

表示	効果
FRONT SURR（S-Force Front Surround）	S-Force Front Surround技術を使っています。 映画、音楽などマルチチャンネルの音声を楽しめます。「MOVIE」に比べてより効果的なサラウンドを再現します。
2CH STEREO*（2チャンネルステレオ）	出力された音声をそのまなるべく加工せずに再生します。
POP*	ポップスなどの音楽をボーカル主体の音声で楽しめます。
JAZZ	ジャズなどの音楽をライブハウスで聴くような音響で楽しめます。
CLASSIC*	クラシックなどの音響を迫力のある低音で楽しめます。
GAME	ゲームソフトなどを臨場感あふれる音声で楽しめます。
NEWS*	ニュースなどのナレーションを聞くときに便利です。
NIGHT*	小音量で音楽などを楽しむときに便利です。
MOVIE	映画、音楽などマルチチャンネルの音声を楽しめます。「FRONT SURR（S-Force Front Surround）に比べて、より広い視聴位置でサラウンドを楽しめます。

* 再生する音声が2チャンネルステレオの場合にはサラウンド効果はありません。

S-Force Front Surroundとは

ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したサラウンドの技術です。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができます。

ご注意

- 再生する音声（AACなど）によっては、サラウンドの効果を感じにくい場合や、センタースピーカーから音を出力しない場合があります。
- DVDマルチチャンネル信号以外のディスクの信号を入力しているとき、サラウンドの効果を感じにくい場合があります（例えば、デジタルステレオ信号、デジタルマルチ信号など）。

ちょっと一言

本機はつないだ機器の入力切換ごとに最後に設定したサウンドフィールドを記憶します。
（電源コードを長時間抜いたままにしていると、お買い上げ時の設定に戻ることがあります。）

次のページへつづく

映画や音楽を楽しむ

視聴位置によって「S-Force Front Surround」または「MOVIE」の 2 種類のサラウンドを楽しめます。

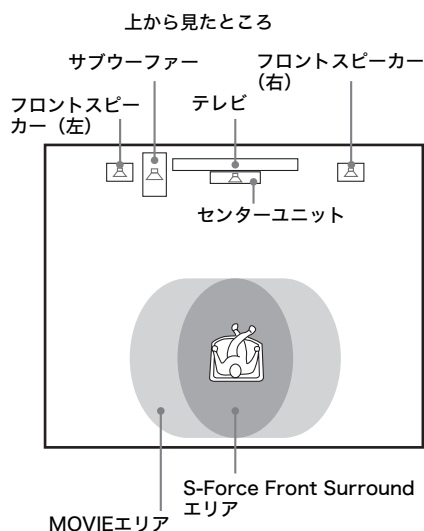
■ S-Force Front Surround

「MOVIE」に比べて、より効果的なサラウンドを再現できます。

■ MOVIE

「FRONT SURR（S-Force Front Surround）に比べて、より広い視聴位置でサラウンドを楽しめます。

上から見たところ

サブウーファー
フロントスピーカー（右）
フロントスピーカー（左）
テレビ
センターユニット
S-Force Front Surround エリア
MOVIEエリア

2チャンネルステレオで出力する

■ 2CH STEREO（2チャンネルステレオ）

音声信号の種類にかかわらず、2チャンネルステレオで再生します。

テレビの音声を楽しむ

テレビの音声を本機のサウンドフィールドで楽しめます。
テレビの接続について詳しくは「BS／CS／地上波デジタルチューナーやテレビなどをつなぐ」（16ページ）または「テレビやビデオなどをつなぐ」（17ページ）をご覧ください。

1 SATボタンまたはVIDEOボタンを押す。

テレビのつなぎかたによって変わります。
テレビをSAT端子につないだ場合（16ページ）：SATボタンを押します。
テレビをVIDEO端子につないだ場合（17ページ）：VIDEOボタンを押します。

2 サウンドフィールド－/＋ボタンを繰り返し押して、表示窓にお好みのサウンドフィールドを表示します。

小音量でサウンドを楽しむ
（AUDIO DRC）

音声のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を狭くします。小さな音量で映画を見たいときに効果的です。
ここでの設定はアンプメニューで行います。
（DRCはDynamic Range Compressionの略称です。）

ご注意
- AUDIO DRCはドルビーデジタルの音声を入力しているときのみ有効です。
- DVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤーなどの本機につないだ機器のデジタル音声出力の設定が「D-PCM」に設定されている場合は、AUDIO DRCの効果が出ないことがあります。「Dolby Digital」に設定しなおしてください。

アンプメニューリスト

第一階層　第二階層　第三階層

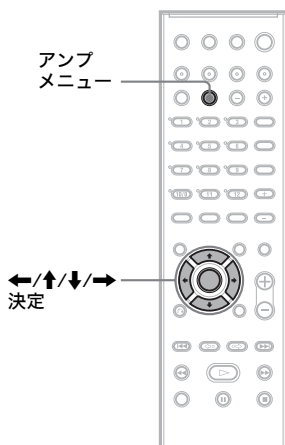
SPEAKER LEVEL
- TEST TONE
  - OFF/ON
- FRONT L SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − 0 dB
- CENTER SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − +6 dB
- FRONT R SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − 0 dB
- SUBWOOFER LEVEL
  - −6 dB − +6 dB

CUSTOMIZE
- AUDIO DRC
  - OFF/STANDARD/MAX
- DUAL MONO
  - MAIN / SUB / MAIN+SUB / MAIN/SUB
- DIMMER
  - OFF/ON

アンプメニュー
←/↑/↓/→
決定

1 アンプメニューボタンを繰り返し押して、アンプメニューをセンターユニットの表示窓に表示させる。

2 ↑/↓ を繰り返し押して、「CUSTOMIZE」を表示窓に表示させ、決定ボタンまたは → を押す。

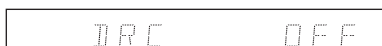
例：

AUDIO DRC

3 ↑/↓ を繰り返し押して、「AUDIO DRC」を表示窓に表示させ、決定ボタンまたは → を押す。

例：

DRC OFF

基本的な操作

次のページへつづく

4 ↑/↓ を使って、オーディオDRC設定を選ぶ。

「DRC STD」または「DRC MAX」を選びます。
「DRC OFF」（お買い上げ時の設定）：効果はありません。
「DRC STD」：標準の効果が得られます。
「DRC MAX」：最大の効果が得られますが、映画の爆発音などの効果音も小さな音量になることがあります。

5 アンプメニューボタンまたは決定ボタンを押す。

アンプメニューの表示が消えます。

設定中に一つ上の階層に戻るには

← を押します。

設定終了後に本機につないだ機器を操作するには

アンプメニューの表示を消した後に、DVD、SAT、またはVIDEO（入力切換）ボタン（46ページ）のいずれかを押して入力を切り換えます。

ご注意

リモコンで操作を行っているときに、センターユニットのFUNCTIONボタンを押すとそれまでの操作が失われます。もう一度リモコンで操作をやりなおしてください。

デジタル放送の音声（AAC）を楽しむ

(DUAL MONO)

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
DVD-RWにVRモードで記録された2ヶ国語放送も楽しむことができます。
AAC受信時は、本体の表示窓に「AAC」が点灯します（24ページ）。
ここでの設定はアンプメニューで行います。

ご注意

- BSデジタル放送などのAACを聞くには、BSデジタルチューナーと本機をデジタル接続し（16ページ）、BSデジタルチューナーの設定メニューで、デジタル出力のAACの設定を「AUTO（オート）」または「入」に設定してください（BSデジタルチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください）。
  また、デジタルチューナー搭載のテレビでAACを聞くには、テレビと本機をデジタル接続し（16ページ）、テレビのデジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください（テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください）。
  以上が確認された上で、以下の操作を行ってください。
- AACの音声では、サラウンドの効果が感じにくいことがあります。

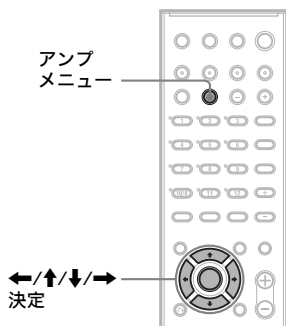
アンプメニューリスト

第一階層　第二階層　第三階層

SPEAKER LEVEL
- TEST TONE
  - OFF/ON
- FRONT L SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − 0 dB
- CENTER SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − +6 dB
- FRONT R SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − 0 dB
- SUBWOOFER LEVEL
  - −6 dB − +6 dB

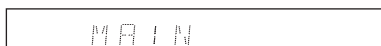
CUSTOMIZE
- AUDIO DRC
  - OFF/STANDARD/MAX
- DUAL MONO
  - MAIN / SUB / MAIN+SUB / MAIN/SUB
- DIMMER
  - OFF/ON

アンプメニュー

←/↑/↓/→
決定

1 アンプメニューボタンを繰り返し押して、アンプメニューをセンターユニットの表示窓に表示させる。

2 ↑/↓ を繰り返し押して、「CUSTOMIZE」を表示窓に表示させ、決定ボタンまたは → を押す。

3 ↑/↓ を繰り返し押して、「DUAL MONO」を表示窓に表示させ、決定ボタンまたは → を押す。

例：

MAIN

4 ↑/↓ を使って、設定を選ぶ。

「MAIN」（主音声）：主音声のみを再生します。

「SUB」（副音声）：副音声のみを再生します。

「MAIN+SUB」（主＋副）：主音声と副音声が合成された音声を再生します。

「MAIN/SUB」（主/副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

5 アンプメニューボタンまたは決定ボタンを押す。

アンプメニューの表示が消えます。

設定中に一つ上の階層に戻るには

← を押します。

設定終了後に本機につないだ機器を操作するには

アンプメニューの表示を消した後に、DVD、SAT、またはVIDEO（入力切換）ボタン（46ページ）のいずれかを押して入力を切り換えます。

ご注意

リモコンで操作を行っているときに、センターユニットのFUNCTIONボタンを押すとそれまでの操作が失われます。もう一度リモコンで操作をやりなおしてください。

センターユニットの表示窓の明るさを調節する
(DIMMER)

センターユニットの表示窓の明るさを調節することができます。
ここでの設定はアンプメニューで行います。

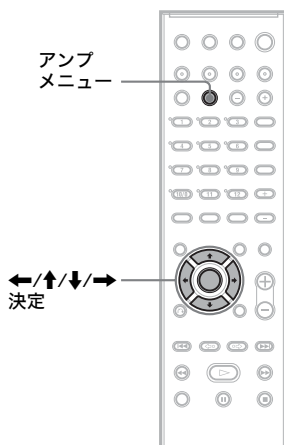
アンプメニューリスト

第一階層　第二階層　第三階層

SPEAKER LEVEL
- TEST TONE
  - OFF/ON
- FRONT L SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − 0 dB
- CENTER SPEAKER LEVEL*1
  - −6 dB − +6 dB
- FRONT R SPEAKER LEVEL
  - −6 dB − 0 dB
- SUBWOOFER LEVEL
  - −6 dB − +6 dB

CUSTOMIZE
- AUDIO DRC
  - OFF/STANDARD/MAX
- DUAL MONO
  - MAIN / SUB / MAIN+SUB / MAIN/SUB
- DIMMER
  - OFF/ON

アンプメニュー

←/↑/↓/→
決定

1 **アンプメニューボタンを繰り返し押して、アンプメニューをセンターユニットの表示窓に表示させる。**

2 **↑/↓ を繰り返し押して、「CUSTOMIZE」を表示窓に表示させ、決定ボタンまたは → を押す。**

3 **↑/↓ を繰り返し押して、「DIMMER」を表示窓に表示させ、決定ボタンまたは→ を押す。**

例：

DIMMER OFF

4 ↑/↓を使って表示窓の明るさを選ぶ。

「DIMMER OFF」（お買い上げ時の設定）：表示窓が明るくなります。
「DIMMER ON」：表示窓が暗くなります。

5 アンプメニューボタンまたは決定ボタンを押す。

アンプメニューの表示が消えます。

設定中に一つ上の階層に戻るには

← を押します。

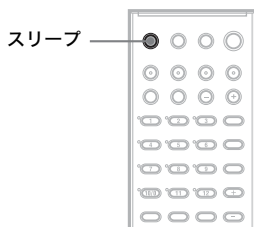
設定終了後に本機につないだ機器を操作するには

アンプメニューの表示を消した後に、DVD、SAT、またはVIDEO（入力切換）ボタン（46ページ）のいずれかを押して入力を切り換えます。

ご注意

リモコンで操作を行っているときに、センターユニットのFUNCTIONボタンを押すとそれまでの操作が失われます。もう一度リモコンで操作をやりなおしてください。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本体の電源を切ることができます。
時間は10分間隔で90分まで設定することができます。

スリープ

スリープボタンを押す。

「SLEEP」がセンターユニットの表示窓に表示されます。
スリープボタンを押すごとに、設定時間が表示窓に表示されます。

SLEEP 90M（90分）→ SLEEP 80M（80分）→ SLEEP 70M（70分）→ SLEEP 60M（60分）→ …SLEEP 10M(10分) → SLEEP OFF（オフ）→ SLEEP 90M（90分）…

設定時間を確認する

スリープボタンを一度押します。

経過時間を変える

スリープボタンを繰り返し押して希望の設定時間に変更します。

スリープタイマー機能を解除する

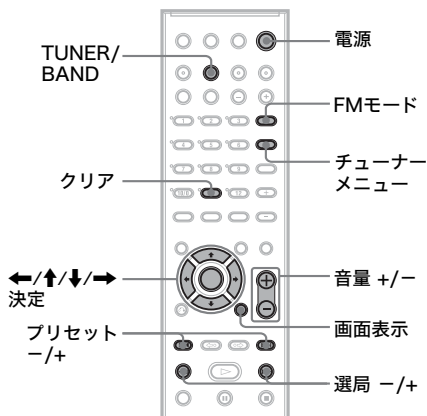
スリープボタンを繰り返し押して、表示窓に「SLEEP OFF」を表示させます。

ご注意

スリープタイマー機能で本機の電源は切れますが、本機につないだ機器の電源は切れません。

ラジオを楽しむ

ラジオを楽しむには、アンテナを正しくつないでください（12ページ）。

TUNER/BAND
クリア
←/↑/↓/→
決定
プリセット
−/+
電源
FMモード
チューナーメニュー
音量 +/−
画面表示
選局 −/+

放送局を登録する（プリセット）

放送局を受信して、登録することができます。FM局を20局とAM局を10局、合わせて30局登録できます。
受信を始める前に、音量を最小にしてください。

1 電源ボタンを押す。

2 TUNER/BANDボタンを繰り返し押して、FMかAMに入力を切り換える。

センターユニットの表示窓にFMまたはAMが表示されます。

3 選局−/+ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。

周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。センターユニットの表示窓に「TUNED」、「ST」（ステレオプログラムのとき）が点灯します。

ST TUNED FM 76.0 MHz

4 チューナーメニューボタンを押す。

5 ←/↑/↓/→ を使って表示窓に「MEMORY」を表示させる。

6 決定ボタンを押す。

プリセット番号が表示窓に表示されます。

ST TUNED MEM 4

7 ↑/↓を使ってプリセット番号を選ぶ。

ST TUNED MEM 7

8 決定ボタンを押す。

放送局が登録されます。

ST TUNED COMPLETE

9 手順2～8を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

手順2から操作をして、手順7でお好みのプリセット番号を選びます。

ラジオを聞く

「放送局を登録する（プリセット）」（32ページ）で放送局を登録しておいてください。

1 **電源ボタンを押す。**

2 **TUNER/BANDボタンを繰り返し押して、FMかAMをセンターユニットの表示窓に表示させる。**

最後に受信した放送局が受信されます。

ST TUNED
FM 7 76.0 MHz

3 **プリセットー／＋ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。**

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

4 **音量＋/ーボタンで音量を調節する。**

ラジオを消すには

電源ボタンを押します。

登録していない放送局を聞くには

手順3で手動または自動で受信します。

- 手動受信は、リモコンの選局＋またはーボタンを繰り返し押します。
- 自動受信は、リモコンの選局＋またはーボタンを押し続けます。自動受信を止めるときは選局＋またはーボタンを押します。

FM放送の受信状態が良くないときは

リモコンのFMモードボタンを押して、表示窓に「MONO」を点灯させます。モノラルになりますが聞きやすくなります。もう一度押すとステレオに戻ります。

ちょっと一言

- 数字ボタンと決定ボタンでプリセット番号を選ぶこともできます。
- 受信状態が良くないときは、アンテナを確認してください（12ページ）。
- センターユニットのFUNCTIONボタンを繰り返し押して、FM、AMを選ぶことができます。「FM」または「AM」が表示窓に表示されます。

登録した放送局に名前を付ける

登録した放送局に名前を最大10文字まで付けることができます。これらの名前は、放送局が選ばれたときに本体の表示窓に表示されます（「XYZ」など）。
それぞれの登録した局には、ひとつの名前しか登録できません。

1 **TUNER/BANDボタンを繰り返し押して、FMかAMをセンターユニットの表示窓に表示させる。**

最後に受信した放送局が受信されます。

2 **プリセットー／＋ボタンを繰り返し押して、名前を付けたい放送局を受信する。**

3 **チューナーメニューボタンを押す。**

4 **←/↑/↓/→ を使って表示窓に「NAME IN」を表示させる。**

次のページへつづく

5 決定ボタンを押す。

6 カーソルボタンを使って名前を付ける。

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。

間違えて入力してしまったら

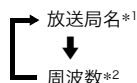
変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←または→を押し、↑/↓で正しい文字を選びます。文字を消すには、←/→を繰り返し押して消したい文字を点滅させ、クリアボタンを押します。

7 決定ボタンを押す。

放送局の名前が登録されます。

本体の表示窓で放送局の名前や周波数を見るには

画面表示ボタンを押します。
画面表示ボタンを押すたびに、表示は次のように切り替わります。

放送局名*1
↓
周波数*2

*1 放送局を登録して、名前をつけていなければ表示されません。
*2 数秒経過後に元の画面に戻ります。

ご注意

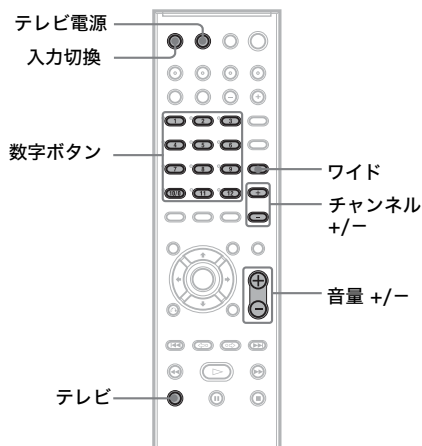
リモコンで操作を行っているときに、センターユニットのFUNCTIONボタンを押すとそれまでの操作が失われます。もう一度リモコンで操作をやりなおしてください。

リモコンで他の機器を操作する

本機に付属のリモコンで、テレビやソニー製DVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤー、BS／CS／地上波デジタルチューナー、ビデオなど本機につないだ機器を操作することができます。
リモコンは操作する機器に向けて操作してください。

付属のリモコンでテレビを操作する

ソニー製テレビだけでなく、他社製のテレビもメーカー番号を設定することで操作できるようになります（35ページ）。

テレビ電源
入力切換
数字ボタン
ワイド
チャンネル +/−
音量 +/−
テレビ

1 テレビボタンを押す。

テレビボタンが赤色に点灯します。

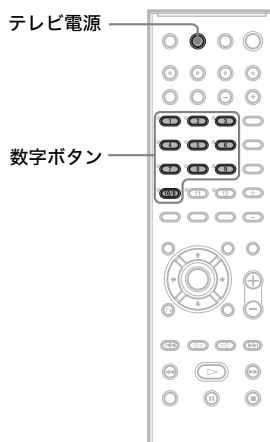
2 テレビボタンが点灯中に、以下のボタンでテレビを操作する。

ボタン	機能
テレビ電源	テレビの電源を入/切します。
音量+/−	テレビの音量を調節します。
入力切換	テレビの入力を切り換えます。
チャンネル+/−（ソニー製テレビのみ）	テレビのチャンネルを選びます。
数字ボタン（ソニー製テレビのみ）	テレビのチャンネルを選びます。
ワイド（ソニー製テレビのみ）	テレビ画面の縦横比を切り換えます。

数字ボタンを使うには

数字ボタンでテレビのチャンネルを選ぶことができます。1〜12チャンネルまで各数字ボタンを押して選んでください。

リモコンで他社のテレビを操作できるようにする

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、付属のリモコンでテレビを操作することができます。

テレビ電源

数字ボタン

1 テレビ電源ボタンを押す。

2 テレビ電源ボタンを押したまま、数字ボタンでテレビのメーカー番号（36ページ）を続けて入力する。

3 テレビ電源ボタンをはなす。

メーカー番号が設定されます。
テレビの操作については「付属のリモコンでテレビを操作する」（34ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

メーカー番号

メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できるものをお選びください。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー	01 （お買い上げ時の設定）
アイワ	12
NEC	04
コルティナ	14
SAMSUNG	13
三洋電機	07
シャープ	08
東芝	03
日本ビクター	09
日立製作所	06
フナイ	11
松下電器	02、05
三菱電機	10

ご注意

- テレビによってはメーカー番号を合わせても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- 新しくメーカー番号を入力すると、メーカー番号は上書きされます。
- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に01（ソニー）に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度合わせなおしてください。

リモコンでDVDレコーダー（スゴ録）やBS／CD／地上波チューナー、ビデオなどを操作する

付属のリモコンで、本機につないだ機器（ソニー製品のみ）を操作することができます。

1 DVD、SAT、またはVIDEO（入力切換）ボタンを押して再生する機器を選ぶ。

リモコンはセンターユニットに向けてください。以下の入力切換ボタンに対応するソニー製機器の操作ができるようになります。

入力切換ボタン	操作できる機器
DVD	DVDレコーダー（スゴ録）、 DVDプレーヤー＊、 “プレイステーション 2”＊
SAT	CSチューナー、 BSチューナー＊、 地上波デジタルチューナー＊
VIDEO	ビデオ（VHS）

＊ リモコンの機器番号の設定が必要です。詳しくは「入力切換ボタンに他の機器を割り当てて操作する」（39ページ）をご覧ください。

2 37～38ページの表にあるボタンを使って、それぞれの機器をリモコンで操作する。

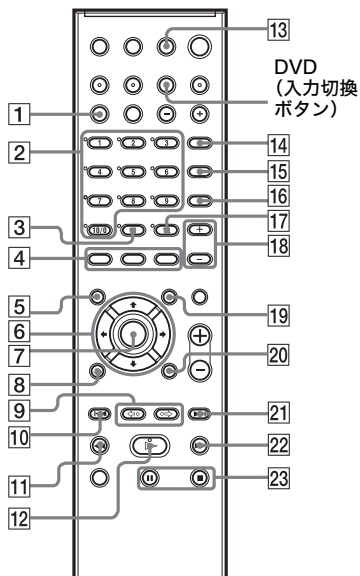
リモコンは操作する機器に向けてください。

ご注意

- ソニー製品のみ操作することができます。
- 機器によっては、一部のボタンが使えないことがあります。
- 操作するときは、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- リモコンの入力切換ボタンを押すことで、本機の音声入力の切り換えと、リモコンの出力信号の切り換えを行います。本機につないだ機器を操作するときには、必ず入力切換ボタンを押してください。

DVD（ソニー製のみ）

DVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤー、“プレイステーション 2”など

DVD（入力切換ボタン）

ご注意

DVDレコーダー（スゴ録）以外の機器を操作するときは、機器番号を設定してから（39ページ）操作してください。

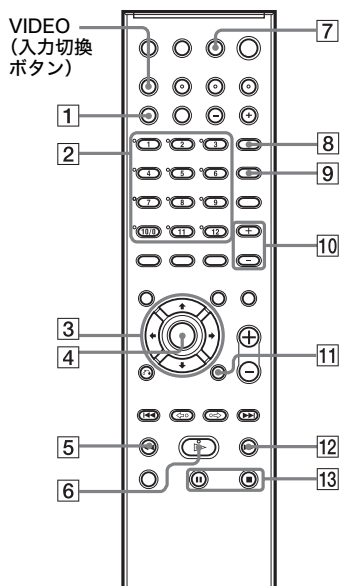
ボタン		機能
1	AVメニュー	メニューを表示する。
2	数字ボタン	画面上の項目を選ぶ。
3	クリア	取り消しなどの操作をする。
4	VIDEO*1 HDD*1 DVD*1	DVDレコーダー（スゴ録）やソニー製のHDD／DVD（／VHS）一体型レコーダー、DVD／VHS一体型レコーダーなどのモードを選択する。
5	トップメニュー／ガイド	ディスクのトップメニューを表示する。
6	←/↑/↓/→	画面上のカーソルを操作して項目を選ぶ。
7	決定	選択を決定する。
8	リターン	ひとつ前の選択画面に戻る。
9	←•/•→（フラッシュ+/−）	再生中に少し前のシーンに戻る、またはシーンを少し先にすすめる。
10	⏮（前）	前のチャプター、タイトルや曲に戻る。
11	◀◀（早戻し）	早戻しで再生する。
	◀II*2（コマ戻し）	一時停止中に軽く押すと、コマ戻し再生する。
	◀I*2（スロー）	一時停止中に1秒以上押すと、スロー再生する。
12	▷（再生）	再生する。
13	AV電源	電源を入／切する。
14	音声	ディスクの音声を切り換える。
15	字幕	字幕を切り換える。
16	アングル	アングルを切り換える。
17	確定	選んだ項目を決定する
18	チャンネル+/−	チャンネルを選ぶ。
19	システムメニュー	設定画面を表示する。
20	画面表示	画面表示を切り換える。
21	⏭（次）	次のチャプター、タイトルや曲に進める。
22	▶▶（早送り）	早送りで再生する。
	II▶*2（コマ送り）	一時停止中に軽く押すと、コマ送り再生する。
	I▶*2（スロー）	一時停止中に1秒以上押すと、スロー再生する。
23	II（一時停止）	再生を一時停止する。
	■（停止）	再生を止める。

*1 DVD（入力切換ボタン）を押してから、再生する機器（モード選択）のボタンを押してください。

*2 ソニー製の DVD レコーダー（スゴ録）に対応しています。詳しくは DVD レコーダー（スゴ録）の取扱説明書をご覧ください。

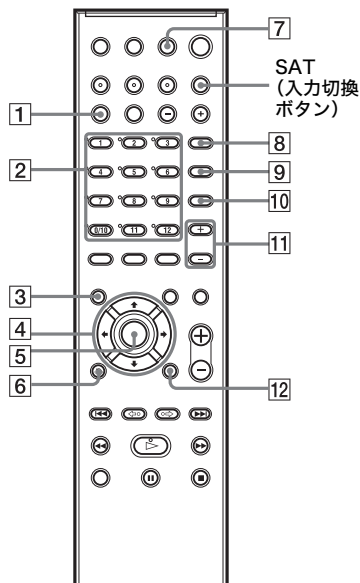
次のページへつづく

ビデオ（ソニー製VHSのみ）

VIDEO
（入力切換
ボタン）

ボタン		機能
1	AVメニュー	メニューを表示する。
2	数字ボタン	チャンネルを選ぶ。
3	←/↑/↓/→	画面上のカーソルを操作して項目を選ぶ。
4	決定	選択を決定する。
5	◀◀（早戻し）	巻き戻しする。 早戻しで再生する。
6	▷（再生）	再生する。
7	AV電源	電源を入／切する。
8	MPX	主／副音声を切り換える。
9	ANT	アンテナ入力を切り換える。
10	チャンネル+/ー	チャンネルを選ぶ。
11	画面表示	画面表示を切り換える。
12	▶▶（早送り）	早送りで再生する。
13	❚❚（一時停止） ■（停止）	再生を一時停止する。 再生を止める。

SAT（ソニー製のみ）

BS／CS／地上波デジタルチューナーなど

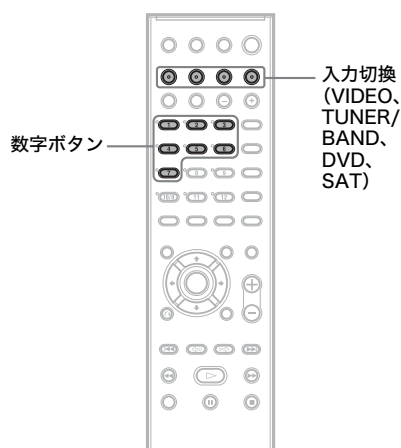
SAT
（入力切換
ボタン）

ボタン		機能
1	AVメニュー	メニューを表示する。
2	数字ボタン	チャンネルを選ぶ。 画面上の項目を選ぶ。
3	トップメニュー／ガイド	番組表を表示する。
4	←/↑/↓/→	画面上のカーソルを操作して項目を選ぶ。
5	決定	選択を決定する。
6	リターン	ひとつ前の選択画面に戻す。
7	AV電源	電源を入/切する。
8	MPX	主／副音声を切り換える。
9	ANT	BS／CS／地上波デジタルの衛星または放送チャンネルを切り換える。
10	JUMP	直前のチャンネルに戻る。
11	チャンネル+/ー	チャンネルを選ぶ。
12	画面表示	画面表示を入/切する。

入力切換ボタンに他の機器を割り当てて操作する

入力切換ボタン（DVD、VIDEO、SAT、またはTUNER/BAND）に他の機器を割り当てて、付属のリモコンで操作することができます。
例えば、DVDレコーダー（スゴ録）のかわりにDVDプレーヤーをお使いになる場合は、DVDボタンにDVDプレーヤーの機器番号を割り当てることによって、付属のリモコンでDVDプレーヤーを操作することができます。

お買い上げ時の設定は以下のようになっています。

入力切換ボタン	設定
DVD	DVDレコーダー（スゴ録）（DVD3モード）
TUNER/BAND	チューナー（FM、AM）
VIDEO	VHSビデオ（VTR3モード）
SAT	CSチューナー

入力切換（VIDEO、TUNER/BAND、DVD、SAT）

数字ボタン

1 他の機器を割り当てたい入力切換ボタン（DVD、VIDEO、SATまたはTUNER/BAND）を押す。

例：DVDボタンに割り当てたい場合は、DVDボタンを押します。

2 ボタンを押したまま、数字ボタンで機器番号（下記の表参照）を入力する。

例：DVDプレーヤーを割り当てたい場合は、DVDボタンを押しながら、1ボタンを押します。

機器番号

機器	機器番号
DVDプレーヤー／“プレイステーション 2”＊（DVD1モード）	1
ソニー製DVD機器（DVD2モード）	2
DVDレコーダー（スゴ録）＊（DVD3モード）	3
VHSビデオ＊（VTR3モード）	4
チューナー	5
BS／地上波デジタルチューナー	6
CSチューナー	7

＊ それぞれの機器のお買い上げ時の設定です。

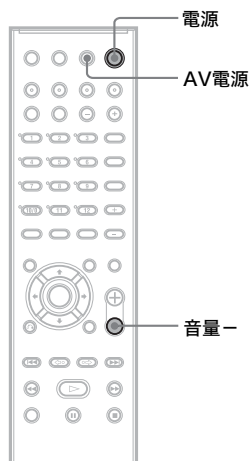
ご注意

本機につないだ機器の機器番号がお買い上げ時の設定とは違う番号に変更されている場合は、手順２で機器番号を入力してもリモコンで操作はできません。機器番号をお買い上げ時の設定に戻してから、手順２をやりなおしてください。

次のページへつづく

リモコンの設定をお買い上げ時の設定に戻す

メーカー番号や機器番号などのリモコンの設定を、お買い上げ時の設定に戻すことができます。

電源
AV電源
音量－

電源ボタン、AV電源ボタンを押しながら音量－ボタンを押す。

設定項目をお買い上げ時の設定に戻す

スピーカー設定やラジオなどの設定項目を、お買い上げ時の設定に戻すことができます。

I/⏻
FUNCTION

1 センターユニットのI/⏻ボタンを押して電源を入れる。

2 FUNCTIONボタンを押しながらI/⏻ボタンを約5秒間押す。

センターユニットの表示窓に「COLD RESET」が表示され、設定項目がお買い上げ時の設定にもどります。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。
本機を修理にお持込になるときは、故障個所を特定するために、スピーカーや付属品もお持ちください。

電源

電源が入らない。

➔ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

➔ システムコードがサブウーファーにしっかり差し込まれていない。サブウーファーの電源コードをコンセントから抜いて、システムコードを抜き、もう一度しっかりシステムコードをつなぎなおして2分後に、電源コードをつなぐ。

センターユニットのI/⏻ランプが点滅している。

➔ すぐにサブウーファーの電源コードをコンセントから抜いて以下の項目を確認する。
- スピーカーコードがショートしていないか？
- 付属のスピーカーを使っているか？
- 本体の通気孔がふさがっていないか？

上記の項目を点検し、I/⏻ランプが消灯するまで約２分間待つ。その後、もう一度電源コードをつなぎ電源を入れる。それでもI/⏻ランプが点滅しているときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

音声

音が出ない。

➔ スピーカーコードの不良。

➔ 各機器が正しくつながれているか確認する。

➔ 「MUTING ON」と表示されている場合は、リモコンの消音ボタンを押す。

➔ スピーカーが正しくつながれているか確認する（10ページ）。

音量が小さい。

➔ DVDディスクによっては、音量が小さいことがある。アンプメニューの「AUDIO DRC」を「DRC MAX」または「DRC STD」に設定する（27ページ）。

ハム音またはノイズがひどい。

➔ スピーカーおよび各機器が正しくつながれているか確認する。

➔ 接続コードの近くにモーターや変圧器、蛍光灯、テレビなどがある。3メートル以上それらから離す。

➔ 設置場所をテレビから離す。

➔ プラグや端子が汚れている。布で汚れを拭き取る。

➔ ディスクに汚れ、傷がある。

DVD (DIGITAL OPTICAL IN) 端子につないだ機器を再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。

➔ スピーカーおよび各機器が正しくつながれているか確認する。

➔ デュアルモノ設定を確認する（28ページ）。

ドルビーデジタルまたはDTSの音声トラックを再生しているのにサラウンド効果が得られない。

➔ サウンドフィールドが「FRONT SURR」（S-Force Front Surround）に設定されているか確認する（24ページ）。

➔ スピーカーの接続と設置を確認する（10、19ページ）。

➔ 音源によっては、サウンドトラックがドルビーデジタルで記録されていても、5.1chすべてから出力されないもの（モノラルやステレオなど）もある。

サブウーファーから音が出ない。

➔ 音源によってはウーファーレベルが小さいものがある。

次のページへつづく

左右のスピーカーのバランスが悪い、または逆になっている。

→ スピーカーおよび各機器が正しくつながれているか確認する。
→ 各スピーカーのレベルを確認する（20ページ）。

センターユニットしか音が出ない。

→ 音源によってはセンターユニットしか音が出ないものがある。

センターユニットから音が出ない。

→ スピーカーの接続と設定を確認する（10、19ページ）。
→ サウンドフィールド設定を確認する（24ページ）。
→ 音源によってはセンターユニットから音が出ないものがある。

スピーカーの音声とテレビの映像がずれている。

→ 本機につないだDVDレコーダー（スゴ録）／プレーヤーまたはテレビのリップシンク（A/V SYNC）機能でずれを調整する（本機では調節できません）。

リモコン

リモコンで操作できない。

→ リモコンの電池が消耗している。
→ リモコンとセンターユニットとの距離が離れている。
→ リモコンの電池を入れ替えたときに、リモコンに設定してあったメーカー番号や機器番号が消えた。もう一度設定しなおす（35、39ページ）。
→ センターユニットの電源を入れる。
→ センターユニットやつないだ機器のリモコン受光部に向けて操作していない。
→ 入力切換ボタン（23ページ）を押して、リモコンから出力される信号を切り換える。

その他

放送局が受信できない。

→ アンテナが正しくつながれているか確認する。
アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使用したりする（12ページ）。
→ 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する（33ページ）。
→ プリセットチューニングしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する（32ページ）。
→ リモコンの画面表示ボタンを押して、周波数を確認する。
→ AMアンテナを本機やDVDレコーダー（スゴ録）などの機器から離す。

サブウーファーから機械音がする。

→ 電源を入れると通気用ファンが回る。動作音であり、故障ではない。

本機が正常に作動しない。

→ サブウーファーの電源コードをコンセントから抜き、約２分後にセンターユニットのI/⏻ランプが消灯しているのを確かめてから、サブウーファーの電源コードをつなぎます。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-LC150FS
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

接続・操作・故障に関するお問い合わせは、ソニーお客様ご相談センターへ

接続・操作・故障に関するお問い合わせは、
ソニーお客様ご相談センターへ
ナビダイヤル　0570-00-3311
携帯電話・PHS　(03) 5448-3311
カスタマーサポートURL
http://www.sony.jp/support/h-audio/index.html

その他

主な仕様

アンプ部

実用最大出力
ステレオモード
　120W＋120W
　（2.7Ω、JEITA*1）
サラウンドモード
　フロント部：120W＋120W
　（SS-TS31）*2
　センター部：120W
　（SS-CTRD1）*2
　サブウーファー部：120W
　（SA-WSRD15J）*2

*1 JEITA（電子情報技術産業界）の規格による測定値
*2 サウンドフィールドの設定によっては実用最大出力が出ない場合があります。

入力（アナログ）
VIDEO　感度：250mV RMS
　インピーダンス：50kΩ
入力（デジタル）
DVD／SAT　光デジタル音声入力端子

チューナー部

回路方式　PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式
FMチューナー部
受信周波数　76.0－90.0MHz（100kHz間隔）
アンテナ　ワイヤーアンテナ 75Ω、不平衡型
中間周波数　FM：10.7MHz
AMチューナー部
受信周波数　531－1,602kHz（9kHz）
アンテナ　ループアンテナ
中間周波数　450kHz

フロントスピーカー：SS-TS31

方式　バスレフ型、防磁
形状　コーン型 65mm
定格インピーダンス
　2.7Ω
最大外形寸法　90×132×107mm（幅／高さ／奥行き）
質量　約0.6kg

センターユニット（センタースピーカー内蔵）：SS-CTRD1

方式　バスレフ型、防磁
形状　コーン型 65mm
定格インピーダンス
　2.7Ω
最大外形寸法　360×110×97mm（幅／高さ／奥行き）
質量　約1.5kg

サブウーファー：SA-WSRD15J

方式　バスレフ型
形状　コーン型、200mm
定格インピーダンス
　2.7Ω
最大外形寸法　270×325×413mm（幅／高さ／奥行き）
質量　約10.0kg
電源　AC 100V、50／60Hz
消費電力　電源が入っているとき：85W
　スタンバイモードのとき：0.3W

付属品

8ページをご覧ください。

本機は「高調波ガイドライン適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

eco info

- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- 主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用
- システムの本体キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- スピーカー外装に非塩ビ系素材を使用

用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。
全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

DTS

デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。
全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

S-Force Front Surround

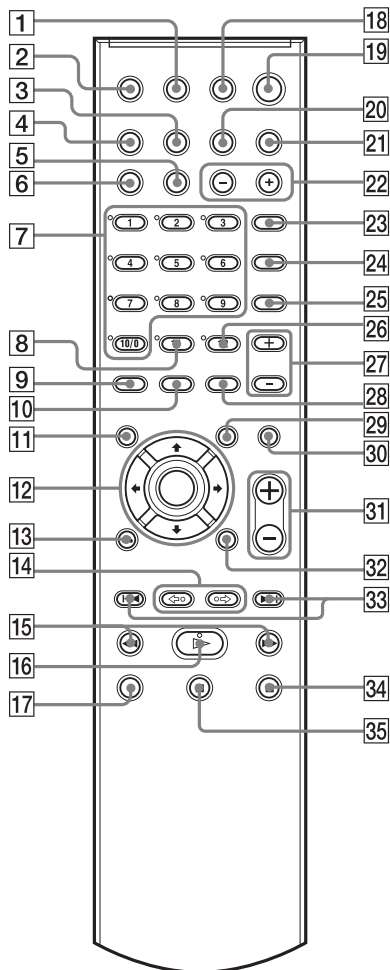
ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したサラウンドの技術です。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができる。

S-Master

ソニーが独自に開発したデジタルアンプ技術。従来のアナログアンプに比べ、原理的にゼロクロス歪みが発生しない点をはじめ、高効率で発熱が少ないため、小型化が容易であるなど、数々の特徴を備えている。

各部のなまえ

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

リモコン

本機を操作するときは（ラジオを聞くときやアンプメニューで設定するときなど）、センターユニットのリモコン受光部 🅁 に向けて操作してください。他の機器を操作するときは、操作したい機器のリモコン受光部 🅁 にリモコンを向けて操作してください。

ボタン	再生する機器*1					アンプメニュー*2
	DVD	ビデオ	テレビ	ラジオ	BS/CS	
1 テレビ電源（34、35）			●			
2 入力切換（34）スリープ（31）	●（スリープ）	●（スリープ）	●（入力切換）	●（スリープ）	●（スリープ）	
3 TUNER/BAND（23、32）				●		
4 VIDEO（23、38）		●				
5 アンプメニュー（20、27、29、30）						●
6 AVメニュー（37、38）	●	●			●	
7 数字ボタン（34、35、37、38、39）	●	●	●	●	●	
8 11（34、38）クリア（34、37）	●（クリア）	●（11）	●（11）	●（クリア）	●（11）	
9 VIDEO（37）	●					
10 HDD（37）	●					
11 トップメニュー/ガイド（37、38）	●				●	
12 ←/↑/↓/→/決定（20、32、37、38）	●	●		●	●	●
13 ↶ リターン（37、38）	●				●	

ボタン	再生する機器*1					アンプメニュー*2
	DVD	ビデオ	テレビ	ラジオ	BS/CS	
14 ←•/•→ (37)	●					
15 ◀◀/▶▶ (37、38) 選局−/+ (32) ◀II/II▶*3 (37) ◀I/I▶*3 (37)	● (◀◀/▶▶、◀II/II▶、◀I/I▶)	● (◀◀/▶▶)		● (選局−/+)		
16 ▷ (37、38)	●	●				
17 テレビ (34)			●			
18 AV電源 (37、38)	●	●			●	
19 電源 (18、23)	●	●	●	●	●	
20 DVD (23、37)	●					
21 SAT (23、38)						
22 サウンドフィールド−/+ (23、24)	●	●	●	●	●	
23 FMモード (32) MPX (38) 音声 (37)	● (音声)	● (MPX)		● (FMモード)	● (MPX)	
24 チューナーメニュー (32) ANT (38) 字幕 (37)	● (字幕)	● (ANT)		● (チューナーメニュー)	● (ANT)	
25 ワイド (34) JUMP (38) アングル (37)	● (アングル)		● (ワイド)		● (JUMP)	
26 12 (34、38) 確定 (37)	● (確定)	● (12)	● (12)	● (確定)	● (12)	
27 チャンネル+/− (34、37、38)	●	●	●		●	
28 DVD (37)	●					
29 システムメニュー (37)	●					
30 消音 (23)	●	●	●	●	●	
31 音量+/− (23、34)	●	●	●	●	●	●
32 画面表示 (32、37、38)	●	●		●	●	
33 プリセット−/+ (32) ⏮/⏭ (37)	● (⏮/⏭)			● (プリセット−/+)		
34 ■ (37、38)	●	●				
35 II (37、38)	●	●				

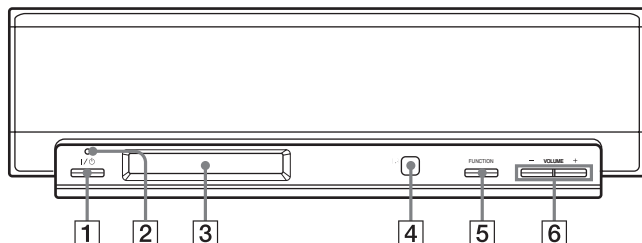
*1 DVD、ビデオ、BS/CS はソニー製のみ操作できます。
*2 アンプメニューがセンターユニットの表示窓に表示されているときに機能します。
*3 ソニー製の DVD レコーダー（スゴ録）に対応しています。詳しくは DVD レコーダー（スゴ録）の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- テレビボタンを押して点灯している間、ボタンの横にオレンジ色の丸印がついているボタンを使うことができます（34ページ）。
- アンプメニューボタン、音量+ボタンには突起が付いています。リモコンを使うときのガイドに利用できます。
- AV電源ボタンと電源ボタンを同時に押すと、本機につないでいる機器の電源を同時に切ることができます。
- VIDEOボタン（9）、HDDボタン（10）、DVDボタン（28）はソニー製のHDD／DVD（／VHS）一体型レコーダーまたはDVD／VHS一体型レコーダーの入力を切り換えるために使います。
DVDボタン（20）を押して本機の入力をDVDに切り換えてから、再生する機器のボタンを押してください。

ご注意

アンプメニューを表示したあとに本機につないだ機器を操作するときは、アンプメニューボタンを押して表示を消した後に、VIDEO（4）、DVD（20）、またはSAT（21）のいずれかの入力切換ボタンを押してから操作してください。

次のページへつづく

センターユニット前面

1 I/⏻（電源）ボタン（18、23、40）

2 STANDBY（スタンバイ）ランプ（18）

3 表示窓（24、48）

4 リモコン受光部（9）

リモコンで本機を操作するときは、リモコンをこの受光部に向けてください。

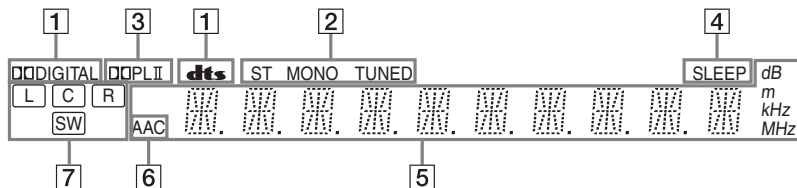
5 FUNCTION（ファンクション）（ファンクション）ボタン（23）

押すたびに以下のように入力が切り換わります。

「DVD」→「SAT」→「VIDEO」→「FM」→「AM」

6 VOLUME（ボリューム）（音量）－／＋ボタン（23）

センターユニットの表示窓

あわせて「センターユニットの表示窓について」（24ページ）もご覧ください。

1 現在の音声のフォーマット（24）

2 ラジオの受信状態（32）
（ST：ステレオ、MONO：モノラル、TUNED：受信中）

3 本機のサラウンド設定（24）

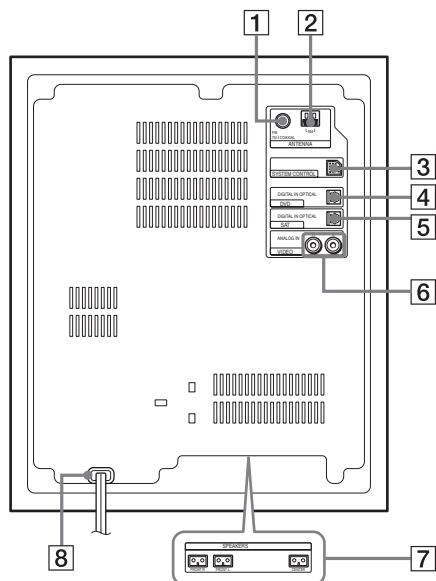
4 スリープモードのときに点灯（31）

5 本機の情報

- チューナー情報（放送局、周波数など）（32）
- スピーカー設定（レベル）（20）
- サウンドフィールド（24）
- 入力切換（23）

6 AAC受信時に点灯（28）

7 設定中のスピーカー（20）

本体後面

1 ANTENNA（FM 75ΩCOAXIAL）端子（12）

2 ANTENNA（AM アンテナ）端子（12）

3 SYSTEM CONTROL端子（10）

4 DVD（DIGITAL IN OPTICAL）デジタル入力（光）端子 （14）

5 SAT（DIGITAL IN OPTICAL）デジタル入力（光）端子 （16）

6 VIDEO（ANALOG IN L／R）音声L／Rアナログ入力端子（17）

7 SPEAKER スピーカー出力端子（FRONT R／FRONT L／CENTER）（10）

8 電源コード（18）

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ら行

A-Z